

# 森正一

もりしょういち

## 活動報告 第33号

発行日 令和元年7月20日 / 発行者 もり正一後援会 (討議資料)  
連絡先 館山市八幡277-19 / TEL 090-2652-3218  
ホームページ <http://www.awanew.com>



### 森正一 プロフィール

- ・昭和42年5月17日生まれ、52歳
- ・北条小、三中、安房高、東北大学工学部卒
- ・館山市議会議員、現在3期9年目
- ・文教民生委員会委員
- ・たてやま21・緑風会会派代表
- ・北条FC代表、館山市サッカー協会監事

### はじめに

改選後初となる、令和元年第2回館山市議会定例会が6月7日から6月26日までの会期で開かれ、条例議案3件、一般議案3件、一般会計補正予算、請願2件等に関して審議が行われました。

一般質問では、「第三中学校の建て替え等について」、「スポーツ観光の推進・社会体育施設の整備について」、「市民の健康増進、健康寿命の延伸について」、「不慮の事故や事件から子どもたちを守るための対策について」をテーマとして質問しました。今回は、「第三中学校の建て替え等」に関して、そして、一般議案質疑等とあわせてご報告させていただきます。

### 行政一般質問 1

### 質問・回答要旨・所感



築工事期間中は、第三中学校の生徒を他の施設に移動させる必要がある。生徒の移動先としてあらゆる方法を検討してきたが、移動先は第二中学校とし、将来的な生徒数も踏まえ、教育的な観点から、第二中学校と第三中学校を統合し、新しい中学校を開校したいと考えている。

今後のスケジュールについては、およそ2年後の令和3年4月に第二中学校の校舎において新しい中学校を開校し、新しい校舎が令和6年3月までに完成する予定なので、令和6年4月に新しい校舎に再び移転する。

なお、今後、第二中学校区、第三中学校区の児童生徒の保護者、地域住民の皆さまを対象とした説明会を開催する。

## 第三中学校の建て替え等について

Q1. 有利な財源確保の進捗状況は？

A1. 5月に北関東防衛局に対し、来年度に実施設計を行うための補助申請を行った。

Q2. 建て替え完了までのスケジュールは？

A2. 平成30年度に基本設計を行った結果、教室の向き、グラウンド、体育館等の配置を踏まえると、既存校舎とほぼ同じ場所に新しい校舎を建設することが望ましいと判断した。既存校舎を解体してから新しい校舎を建設することになるので、校舎改

### 所感

### 建て替え・二中与三中の統合方針が示され、説明会が開かれました

三中校舎の耐震不足が判明してから5年が経過し、ようやく校舎の建て替え方針、建て替えにあわせた二中与三中の統合方針が議会と市民に示されました。

今回示された建て替え方針、建て替

え期間中の生徒の安全な学習環境（場所）の確保については、これまで私が一般質問の中で提案してきたものとはほぼ同様であり、内容については反対ではありませんが、方針決定までのプロセスや児童・生徒を通じた保護者への連絡手段などに大きな問題があったと考えています。

方針決定に際しては、議会や学校再編調査検討委員会、PTAや地域の皆さま、そして対象となる学校関係者に事前の説明はなく、突然、統合の方針が公表されたことに対し、多くの方が疑問を抱いており、6月末から7月の始めにかけて4会場で開催された説明会において、多くの参加者から批判や怒り、不満が噴出したのは当然のことだと思います。

校舎の危険性や建て替えの検討状況等について、保護者や地域の皆さまに対して説明会を開催したり、PTAや地域の代表を交えた新校舎建設検討委員会の設置等について、平成28年第2回定例会から引き続き要望して来ましたが、このような形になってしまったことは本当に残念でなりません。

### 三中校舎はとても危険であり、今すぐに生徒たちの移動などの安全対策が急務!!

建て替えについては、以前から一般質問の中で議論を重ねてきており、震度6強を超える地震が発生した場合、天井の崩落、校舎内の壁の倒壊、そして外壁の崩落などの被害が考えられますが、最悪のケースとして、床が抜け落ちたり、倒壊した壁などにより避難路が塞がれて避難できなくなるような

ことも可能性がゼロではありません。校舎のどこがどう危ないのか、地震発生時にどのような行動を取るのが最善なのか、二中校舎に移動するまでの間にどのような安全対策が必要なのか、今すぐにでも移転すべきなのかどうか、しっかりと調査・検証する必要があります。そこで、専門家による調査を要望しましたが、避難訓練を継続徹底し、生徒の危機意識を高めるための指導を継続していくという到底納得できない回答でしたので、引き続きこれらの調査と検証を要望して参ります。

三中のIs値は0.33と公表されていますが、これは剛床仮定（地震の揺れにより変形しないほど固い床の意）が成立すると判断し、建物全体で評価した場合のIs値であり、校舎2階部分の教室棟と特別教室棟を結ぶゾーンにおける南北方向の揺れに対するIs値は0.217であることが情報開示請求によって入手した資料から判明しており、一刻も早く生徒たちを安全な環境に移動させなくてはなりません。

### 説明会の中で仮設校舎の建設など、二中校舎の利用以外の提案がありました…

説明会の中では、「グラウンド部分や中央公園に仮設校舎を建てて移動すればよいのではないか」とのご意見が出ましたが、「仮設校舎の費用として約5億円かかる」、「仮設校舎が完成して移動できるのが早くても令和3年の秋以降であり、二中校舎に移動するよりも大幅に遅くなる」、「仮設校舎の場合、地中深くまで杭打ちを行わないので、液状化により被害を受

ける可能性がある」、「津波によって破壊されてしまう可能性が大きく、また、津波に対して避難ビルとしての役割を果たせない」、「新校舎完成後に取り壊さなくてはならない」、「防音と断熱性が悪く、教育環境として望ましくない」等の多くの問題があり、仮設校舎建設案は現実的ではないと考えています。

また、「旧安房南高校校舎や館山総合高校水産校舎は使用できないのか」とのご意見もありましたが、教育委員会の説明では、「どちらも教室数が足らず、水産校舎は現在も館山総合高校が授業で使用しており、これらへの移転は断念せざるを得ない」とのことでした。旧安房南高校校舎については、卒業生の方から、「十分足りるだけの教室数があるのでは？」のご意見も出たことから、今後、自分の目で見て確認してみたいと思っています。

## 二中は津波浸水エリア内にあるが大丈夫なのか？ 現在考えられる最善策は？

さらに、「二中は津波浸水エリア内にあり、わざわざ危険だとわかっている校舎に移動するのはおかしいのではないか」といったご意見がありましたが、国がとりまとめた「津波浸水想定の設定の手引き」に基づき、昨年11月に千葉県が策定した津波浸水想定図によると、二中校舎の場所における浸水深さは最大で5m以上10m未満となっており、3階、あるいは4階以上に避難すれば難を逃れられると考えられます。ちなみに津波到達時間は市内の伊戸地区で8分（津波高17

m）となっており、新井海岸付近はこれよりは遅いと思いますが、数分程度の違いではないでしょうか。これらのことを考えると、生徒たちは城山へ逃げるのではなく、校舎の4階または屋上に避難する方がより安全だと思われます。

この「津波浸水想定」は、過去に千葉県沿岸に津波被害をもたらした地震や、将来最大クラスの津波をもたらすと想定される5つの地震を選定して各地震のシミュレーションを行い、「最大クラスの津波」が「悪条件下」において発生した場合を想定したものであり、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低いものです。これよりも大きな津波が発生する可能性があることは否定できませんが、二中校舎が津波避難ビルに指定されていることから三中生徒は二中校舎に移動し、新校舎が完成した時点で、全員が地震にも津波にもより安全な新校舎に移動するというのが、現在考えられる最善策ではないでしょうか。

## 建て替えと統合は別問題ですが ここで立ち止まってはいただけません!!

三中生が二中校舎へ移動するという方針が示されましたが、それまでの間の安全が確保された訳ではありません。また、市の方針が示されただけで、移動も統合も確定ではありません。建て替えと統合は切り離して考えるべきだと思いますが、二中校舎を使用して二つの中学校が別の学校として同居するのは困難であり、不自然な状況ではないでしょうか。そして、生徒たちの生命・身体を守るために、三中生の

移動に併せて統合するのであれば、統合に関係のある全ての学校のPTAや地域の皆さまを委員とする検討委員会を早急立ち上げ、様々な問題や課題について協議して決定して行く必要があります。

ます。子どもたちの安全を確保するため、三中校舎の建て替えとそれに伴う統合が子どもたちにとって最善の選択だったと誰もが納得できるよう引き続き様々な要望・提案を行って参ります。

## 一般議案 質疑

### 新給食センターPFI事業契約の締結について

新給食センターPFI事業は、民間資金とノウハウ活用して新給食センターの施設整備、学校給食事業を行うもので、事業期間は契約の日から2040年8月31日まで、契約金額は約47億5,000万円(税込)、契約締結後には災害協定も締結し、災害時には炊き出しや給食配送車による救援物資の運搬などの支援業務も行うとのことです。

また、事業開始時点ではPFI事業者による自主事業は実施しませんが、今後、市からの新たな事業の依頼なども含めて、契約期間中に事業者側から自

主事業等の提案があった場合には、市と協議して進めていくとのことでした。

今回、新給食センターの建設・運営をPFI事業としたことにより、20年間で約2億円の歳出削減効果が見込まれています。

今後もこのようなPFIや指定管理者制度の導入により、民間活力とノウハウを活用し、多様化する住民ニーズへの効果的・効率的な対応、住民サービスの更なる向上と経費削減を図ることが重要だと思えます。

## 終わりに



4月21日投開票の館山市議会議員選挙におきましては、皆さまの多大なるご支援と温かい応援により3期目の当選を果たすことができました。

2期8年の経験を活かし、館山市を『住んでよかったと思えるまち』にするために、これからも市民の皆さまの声を市政に反映していきたいと考えて

おりますので、ご要望・ご提案などありましたら遠慮なくお申し付けください。

館山市の抱える様々な問題や課題の解決へ向け、議会質問などを通して粘り強く要望・提案をして参ります。本任期中の4年間、選挙の時に掲げた目標の実現に向け全力で頑張る参りますので、これからも温かいご支援とご指導をよろしくお願いいたします。